

第一回

みなかみ町俳句短歌大会

作品集

俳句の部

46 人 92 句

※同点の場合は投稿順を優先しました。

※一人の投稿者の受賞は一賞に限定しました。

※入賞・入選以外の作品は投稿順に掲載しています。

【みなかみ町長賞】 17点

足袋ともに土の香も脱ぐ春の土間

番場 正夫

【みなかみ町議会議長賞】 14点

「転ぶなよ」 主治医の言葉春温し

林 美佐子

【みなかみ町教育長賞】 13点

種蒔て今日ある人生慈しむ

高橋基一郎

【みなかみ町文化協会会長賞】 13点

山城の土塁どるいに群れし落との臺とう

諸田 弘

【大会実行委員長賞】 12点

蝌蚪かどの鼻水面みなもの雲に分け入りぬ

久野公市郎

【入選】 12点

土産にと頃合い計りかき菜摘む

関 信司

【入選】 11点

お返しお返しのほのかにぬくし草の餅

前原 杏

【入選】 11点

石垣いしがきのぬくもりもらひ野のの堇すみれ

関 和子

【入選】 8点

万葉まんやのかな文字書くかにてふの舞い

美 泉

【入選】 8点

踏青たせきやマスク外して深呼吸

長浜 利子

【入選】 8点

囀^{さへずり}や文字のかすれし五輪塔

羽鳥 正子

【入選】 7点

衰えの見えぬコロナや花は葉に

杉木 輝夫

【入選】 7点

新しき木の香の椅子や花の昼

高橋キセ子

【入選】 7点

菜の花や知らない道を迂回せり

林 好一

【入選】 7点

峡^{かい}の戸^こに同姓数多^{あまた}こいのぼり

遠藤 長代

【入選】 7点

夜ざくらはスーパームーンひとりじめ

高橋 吟子

【入選】 7点

黄水仙彩る庭も空家かな

武 子

【入選】 6点

振り返り振り返りして初桜

原澤 健吉

【入選】 6点

思ひ出も拝聴しつつ吊し雛

佐藤美智子

【入選】 5点

キツネ蕎麦すすり汽車待つ朧月

原澤 芳雄

【以下、投稿順に掲載】

花菜漬け食みつ昭和を懐かしむ	美 泉	春浅しコロナすべての夢奪い	品田 幸子
雪形の蝶か鳥かを争はず	眞庭 義夫	入学しルール覚えつ列に入る	品田 幸子
あばら家の雪の枕の語りぐさ	眞庭 義夫	山桜揚水式の発電所	長浜 利子
菜の花や歩めば風が追いこして	高橋基一郎	春惜しむ八十で手術の日を待てり	林 さよ子
水草をくわえて遊ぶ金魚かな	平澤 文恵	花は葉に免許返納セニアカー	林 さよ子
陽だまりにやさしく咲けり梅の花	平澤 文恵	水嵩の一夜に増しぬ花筏	林 好一
和尚さん新ファッションで墓地除雪	湯本三四郎	優美秘め御室桜や蕾ほど	原澤 健吉
谷川の眞白き雪も縞模様	湯本三四郎	春風や石仏の頬そつと撫で	番場 正夫
三倍も生きて空しや啄木忌	杉木 輝夫	繚乱の牡丹に一握お礼肥	遠藤 長代
新緑を出て川音をさぐりけり	久野とし子	早春賦口ずさむ女武家屋敷	原澤 芳雄
ふるる物みなあたらしき聖五月	久野とし子	ウイルスに振りまわされて春終る	高橋 吟子
ねんねこのぬくもり借りてよもぎ摘む	及川 睦夫	ウイルスに山も怯んで未だ堅し	武 子
ひなたぼこじじばばたちのちゃんちゃんこ	及川 睦夫	久に逢う時は喪服や春しぐれ	林 美佐子
一人孫来春やつと一年生	武田 正	人まばら桜満開見事成り	岡田 完二
喜寿になり今日も元気で良い春だ	武田 正	姉片身椿一輪そつと咲く	岡田 完二
茹汁の甘き匂ひや荖立菜	高橋キセ子	夫逝きて日々につぶやき老の秋	高澤ヒサヲ
日当たりて又日当たりて春一ばん	鈴木 節子	窓の月老いて今なほ母思ふ	高澤ヒサヲ
車窓より青空に浮く岳の雪	鈴木 節子	風の無き花がらを摘む暮の春	須藤 清美

初咲きの雨に一輪紅椿	須藤 清美	みなかみも四月の風が動きだし	曲 葉
コロナ菌退治できぬか春の星	関 和子	まどわされ生く九十年四月馬鹿	曲 葉
白椿形身に植えし人を恋ふ	細川 浩一	病院へ届く春の香シエフの腕	林 明男
吹き止まぬコロナ旋風葱植える	細川 浩一	交差点の指「ピツ」と仕切る春の朝	林 明男
春の畑気は若くともくたびれて	阿部 伊亨	齒の悲鳴研磨機唸る花の昼	北 雲
春暁やラジオのニュース夢の中	阿部 伊亨	地の目覚めときめく叫び露のとう	北 雲
出しおくれ首相の言葉民まどう	阿部智恵子	手を抜けば早一面のいぬふぐり	内山 静子
世界中コロナの敵が見えぬまま	阿部智恵子	別荘に唯れも来ぬまの落椿	内山 静子
頬を染め自転車楽し浅き春	林 米子	天領の牧の地ととや春の月	羽鳥 正子
生きてなほ幸せ恵む祝膳	林 米子	鐘の音の渡る裏山霞かな	酒井 富子
ウィルスに誤算あまたや春の闇	林 惠美子	乗り継ぎの電車単線うららけし	酒井 富子
春風に大根味噌汁にほひくる	林 惠美子	新米や味覚が勝る水月夜	大川美知子
無観客春場所終り感無量	高橋 桂子	不順なりピンクに咲きし姥桜	大川美知子
オー燕今年も来たね幸を呼ぶ	高橋 桂子	葉桜の小さき校庭さかあがり	前原 杏
やがて行くお伽の国や花筏	津 恵 女	定年は無き生業や山笑う	諸田 弘
コロナ不安ベンチに人なく降る桜	津 恵 女	頂に神在し桜咲き満つる	佐藤美智子
とこまでをわが空とせむ青き踏む	久野公市郎	花まつのみし桜おぼる月	艸 方 翁
露のとう葉の一片も手紙とす	関 信司	雨上る夕陽の桜朱く染む	艸 方 翁

短歌の部

50 人 98 首

※同点の場合は投稿順を優先しました。

※一人の投稿者の受賞は一賞に限定しました。

※入賞・入選以外の作品は投稿順に掲載しています。

【みなかみ町長賞】 12点

独り身になれば男は惨めよと妻が指南の炊事洗濯

杉木 輝夫

【みなかみ町議会議長賞】 12点

縄飛びに足とられしはわればかり春は廻り来廃校の跡

眞庭ヨシ子

【みなかみ町教育長賞】 11点

久々に代神^{かぐら}楽観し夜は若き日に夜毎習いし所作甦る

細矢 久

【みなかみ町文化協会長賞】 11点

久々に華やぐ声の戻り来し休校明けの朝の登校

長浜 利子

【大会実行委員長賞】 11点

院内は何処もマスクの顔ばかり皆口つぐむ緊張の春

番場 正夫

【入選】 10点

お茶に呼びお茶に呼ばれし日の杳^{とほ}くとんぼ群れゐる我がさと穩^{おだ}し

田村 鶴江

【入選】 10点

津軽三味^{しやみ}聴く場内の静けさに潮満るごと拍手湧き立つ

いくじ

【入選】 10点

弓を引く凜々しき乙女放ちし矢静寂やぶりの射抜きぬ

原澤 芳雄

【入選】 10点

朝あけの谷川岳は輝きて豊作祈り田に水を張る

艸 方翁

【入選】 9点

親牛は仔牛を呼びて鳴き明かす声からすまで一夜を鳴きて

河合なみ江

【入選】 8点

岳の雪斑まだらとなりて奥利根の川波白く柳芽を吹く

細川 浩一

【入選】 8点

幸せといふおぼろなる夢を追い病かさねつ米寿むかへり

久野公市郎

【入選】 8点

週末の車窓が写すオレンジは疲れ吹き飛ぶ「ただいま」の色

大山 智也

【入選】 7点

夜の間を母編みくれしわらざうり登下校一里に三日をもたず

眞庭 義夫

【入選】 7点

朝ドラにもらい泣きして茶をすす今日が始まる余生ひとひ一日を

林 好一

【入選】 7点

農始めエンジンの音空高く土黒々と生命いのち掘り出す

北 雲

【入選】 7点

お祭りに炊いた赤飯頬張れば懐かしきかな亡き母の味

小林はつ江

【入選】 7点

放課後にないしよで買った10円の君とくだいた夏れもん飴

山崎 杜人

【入選】 6点

青空に雪形の映ゆ谷川岳耳尖らせて夏に向ひぬ

高橋 操

【入選】 6点

核兵器持つ大国はウィルスと戦えずいて人命いのち救えず

関 和子

廃園の遊具傾き軋み居り有史に残る名胡桃の地の	細矢 久	どこでどふ感染するか摩訶不思議敵は手強きコロナウイルス	長浜 利子
満々と水の張られし峡の田に影を落して青鷺とび来	田村 鶴江	マスクして泳ぐがごとくスーパーを八十路を生きる微細な買物	林 好一
昭和初期より平成令和と生きて来し今あらためて我が齢知る	松井とし子	ついに来た電線止まるツバメ見ゆ「お帰りなさい」答ふよに鳴く	奥村 清美
しんくくと雪降る夕べ燐家より豆まく子等の声聞えくる	松井とし子	テレビには緊急事態告げる報満開の桜一人眺むる	奥村 清美
この国の有事に備ふる若きらの訓練飛行が峽をゆるがす	眞庭 義夫	ウィルスの難局とても耐え抜くと泰然自若を心掛けをり	番場 正夫
廻し持つ組長箱のその隅に配給切符封筒にあり	吉野 仍次	雪解けのしずく一滴連らなりてめざす海原夢は大きに	遠藤 長代
氈鹿の糞を掻き分け野蒜摘み慣れたる山路よろよろ下る	吉野 仍次	世界地図塗り潰したるウィルスの脅威にひとは必ずや勝つ	遠藤 長代
宿坊での厳しき三日の体験を持病ある友笑顔で語る	高橋 操	春の空岳の雪形指さして種蒔く頃と翁は語る	原澤 芳雄
流れくる利根の水は清けれどダムに渦まく水のあわれさ	平澤 文恵	千秋落「しこ踏む音」聞こえくる観客なくて静謐な土俵	高橋 吟子
早、九年声も姿鮮明に心の奥に生るがごとく	平澤 文恵	桜咲く誰に見しよとて咲いたやらコロナウイルス恨めしきかな	高橋 吟子
ふるさとの高からむ山重なりてむらさき色に霞む夕暮れ	杉木 輝夫	新しきトラック大安の日に来たり我が家の足の無事故を願ふ	小林 博子
ほぐれつつ柳の絮の飛び来れば跳ねてつかみぬ希望の夢を	久野とし子	今日受けし更新免許証ポケットに無事故を願ひハンドル握る	小林 博子
縁側で遠く旅する母をりて清やかなりし利根の川風	久野とし子	透明な空気重ねて成るのかと空の蒼さに疑問をいたく	関 和子
梅の香にふとさそわれて出て見れば庭の小枝にわずかほころぶ	古藤 夏子	春の雨降りしきるひと日籠りいて昨日鳴きたるウグイスいずこ	高橋 やま
探知大麻薬を見ぬく小型でも甘える姿我が子と同じ	古藤 夏子	農に生まれ農に嫁いで年重ね安らぎの余生コロナに怯える	高橋 やま
東西に伸びし櫂の御神木五穀豊穰占う芽吹き	いくじ	芋植えていぬふぐり咲く畦に臥し無心となりてしばし微睡む	細川 浩一
週二回趣味に集いし友孕寿ボール走らす手さばき冴えて	品田 幸子	月が出て桜のほいにさそわれて時がたつのに木葉ねむれず	阿部智恵子
学舎は変われど桜変わりなく遠き歲月裏山に映え	品田 幸子	歩く道遠い父母には会いぬけどまがった道に花は咲くまい	阿部智恵子

ポストまで歩く道辺に鶯の輪唱 <small>（せせう）</small> するごとく囁 <small>（ささや）</small> り交はす	林 恵美子	夫の手で枝打ちされしいちいの木子すずめ遊ぶジャングルジムに	吉田まゆみ
人類の歴史は感染症との闘ひとふ新型コロナナ肺臓ねらふ	林 恵美子	箒 <small>（ほうき）</small> 持ち四角の部屋を丸く掃き自分の顔は猫の真似する	本多 義二
青き空白き雲見ゆ水たまり田中 <small>（たなか）</small> の道の宇宙飛び越え	中島 早苗	露のとう春一番を摘みに行き昔ながらの料理してみる	本多 義二
曆にはなき人生の卒業や慎しみて生く時の風吹くまで	中島 早苗	、どんぶらこ、流れゆく先花 <small>（はな）</small> 筏 <small>（いかだ）</small> 棒でかき混ぜ一寸法師	齊藤 淳子
若き日の吾は軽く手を振るに深々お辞儀し別れたるひと	津 恵 女	ニヤンともなくおやつ <small>（おやつ）</small> の煮干し好きだけどママのお手々はもつと好きだにゃ	齊藤 淳子
六年経る吾押す車イスの夫は「最後の桜」と云いて逝きけり	津 恵 女	月明かり君の手を取り肩並べ濡れる花びら高鳴る鼓動	井田こずえ
ふるさとは母の胸とぞ思ひけり抱かれし遠き日の鼓動音 <small>（こどうおん）</small>	久野公市郎	忘れていた温もり優しさ何故だろう君に触れるとこみ上げてくる	井田こずえ
葬終ふる春めく空の明かるくて友の笑顔の浮かびては消ゆ	眞庭ヨシ子	桜咲き生きてく魅力山山で風にあおられ桜散るまで	篠原 忠
男孫らの成長なせる姿見て戦なき世を祈るこの頃	手塚 光子	真白な谷川岳の見える矢瀬孫は裸足でまた駆け回る	本多寿美枝
息や孫とほどよくまく付き合えどいづれ一人と思う母の日	手塚 光子	利根川の青さが増した水かさは谷川岳の雪解け水か	本多寿美枝
荷作りの紐繰りし子ら黙しぬて職なき峽に桜散りたり	荒木 洋子	ドアを開けて足元見ればまた一つ春の野花が今年も息づく	小林はつ江
もう一度やり直したき子育てを孫へ向きたり子への贖罪	荒木 洋子	谷川の山岳照らし降り立ちぬ今美しき太陽の神	田中 春枝
コロナ禍に挑むるがごとく武者幟眼光するどく魔手を伏すか	北 雲	青葉揺れ小鳥が枝でさえずればカラスも唄い春風踊り	田中 春枝
夕つかた娘と歩む名胡桃城山の端 <small>（は）</small> に浮かぶ上弦の月	眞庭三枝子	庭先でいつもきれいに咲くピオラ会うたび癒され微笑む私	大山真紀枝
陽の光り水面にからむ花いかだ風にゆらゆら浮きつ沈みぬ	眞庭三枝子	「また忘れた」なぜか忘れるコープデリ思いつくのは昼の休憩	大山真紀枝
櫻花静かに春を染めあげて光となってこの世を照す	眞庭アイ子	横顔が父に似てきたわが息子進む道決めさあ走り出せ	宮崎りえ子
人間の生活基盤くるはせてコロナウイルス大道をゆく	眞庭アイ子	子育てがひと段落で気が楽に今度は自分磨きに励む	宮崎りえ子
亡き母が教へてくれし天 <small>（あま）</small> ぶらやたねつけ花のほろ苦き味	吉田まゆみ	花 <small>（はな）</small> 詞 <small>（ことば）</small> 永遠の愛とふチューリップ凜凜 <small>（はなびら）</small> し葩 <small>（はな）</small> 誰か重ねて	篠原 香代

床の上ゆれてヒカリの乱反射「虹のカケラ」と届くそらみみ 篠原 香代

早春のまだ下手くそなホーホケキョ自分と重ねニヤリ微笑む 大山 智也

天心の月仰ぎ見る天広く深閑として山影沈む 艸 方 翁

待ち合いの椅子二脚つつ開けて有りコロナウイルス防ぐように 河合なみ江

轟がうと雪代逆巻く湯松曾川音ひびかせて光り流るる 石坂喜美江

浅緑の目映きまでに柳染む外出自粛のわれを慰む 石坂喜美江

第一回みなかみ町俳句短歌大会作品集

令和二年五月二十九日 発行

編集／発行 第一回みなかみ町俳句短歌大会実行委員会

〒三七九―一三〇五

群馬県利根郡みなかみ町後閑三二一番地一

みなかみ町教育委員会生涯学習課内

電話 〇二七八(二五)五〇二五